

『高等教育機関』が高崎市に及ぼす多様な効果（見える化）測定及び高崎市の未来創生に関する高等教育機関が果たす可能性検討《中間報告》

知の拠点化推進室 特命准教授 吉田 秀政

1. 目的

中国地方や九州地方での中山間地活性化活動の一環として実践した多様な大学との連携経験を通じ、あるいは活性化活動立案を目的としたリサーチを通じて筆者が抱いた課題を軸に研究をすすめる。第一の課題として、持続的な地域活性化の必要性を良く理解した専門家あるいは専門集団による大学間連携・地域連携・産学官民連携等のオペレーションの有無や質の高低が、地方創生の「成否」に及ぼす影響について検討する。第二の課題として、高崎市内大学群が有する「リソース（ヒト・モノ・コト・チエ）」と高崎都市圏域の地方自治体や事業者をマッチングさせ、その活動を持続的、連続的に支えられる「エコシステム」の必要性あるいは様態について検討する。

2. 方法

地域連携実践事例に対する調査・分析を主たる研究方法とし、具体的には国内における大学と地方自治体による連携活動先進地のひとつとされる北海道と高崎都市圏域の活動事例を課題解消および価値創出の視点でデブスインタビューやアンケート等をもとに比較分析を行った。

3. 結果

分析の結果、高崎都市圏域での地方自治体と大学との課題解消あるいは価値創出を目的とした連携活動では、以下の特徴が認められた。

- 1) 大学と地方自治体との間で、連携成果や評価認識に明らかな差が生じている。
- 2) 両者が把握している連携回数に明らかな差が生じている。
- 3) 北海道内の地域連携事例と比較し、両者による共同研究等が少なかった。
- 4) 北海道内の地域連携事例と比較し、大学生ボランティア活動が多かった。
- 5) 北海道内の地域連携事例と比較し、地域連携を戦略的にコーディネートする教員の存在が確認できたが、高崎都市圏域に所在する大学群では、一部機関を除き確認できなかった。
- 6) 北海道内の地域連携を支えていたプラットフォームやエコシステムが高崎都市圏域では確認できなかった。

4. 結論（第二期研究課題）

地方自治体との連携活動で確たる課題解消あるいは価値創出活動実績がある北海道内の社会学系国公立単科大学と高崎都市圏域の大学群の連携様態を比較分析した結果、地方自

治体が大学に求めるニーズについてはほとんど違いがないことから、3で示唆したとおり、地域連携に対する大学側の認識や仕組みに差があると仮定した。北海道の先進事例を鑑み、地方創生局面において、大学あるいは大学群が担うべき役割（地域貢献）が質量ともに大きく変化していると確信した。第二期では先進事例調査対象エリアを全国に拡大するとともに、高崎圏域での深掘り調査も行い、第一期で示した二つの課題と、課題解消および価値創出の視点を軸に仮定の検討を進める。